【令和６年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立南郷小学校

【調査目的】

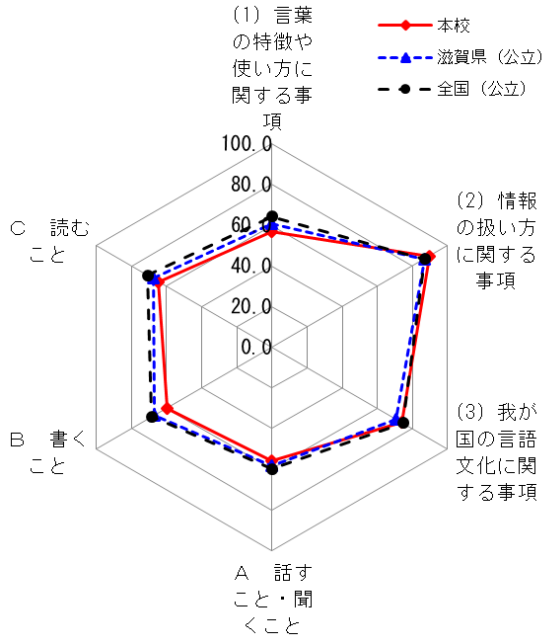
・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について～我が校の強み・弱み～】

今年度はタブレット端末を利用した児童質問紙調査と、国語科、算数科の調査が行われました。
全体的に無回答率は低く、最後まで問題を解こうと頑張ることができました。

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

【学習指導要領の内容の平均正答率の状況　国語】



国語

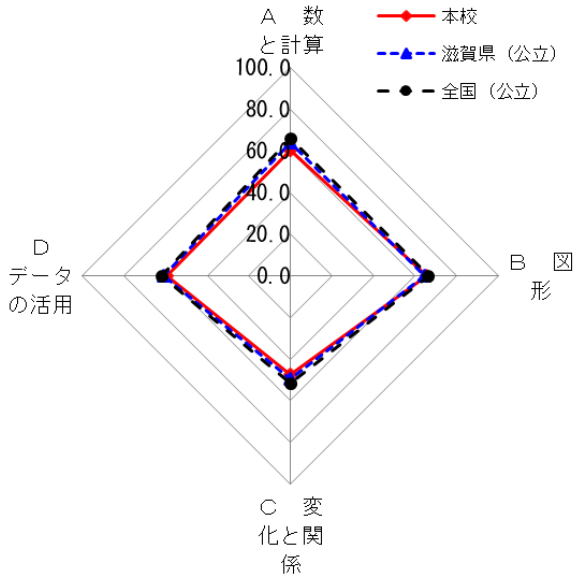
○　「情報の扱い方に関する事項」は、滋賀県平均・全国平均を上回りました。

○　②一（２）「メモの書き表し方として適切なものを選択する問題」など、情報と情報との関係の表し方を理解し、使うことができるかをみる問題がよくできていました。

●　「書くこと」の領域において、とくに目的や意図に応じて、事実と感想、意見と区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを記述する問題で課題が見られました。

●　文章中の下線部ア（きょうぎ）を漢字（競技）に書き直す問題の正答率が低く、漢字の定着に課題が見られました。

【学習指導要領の内容の平均正答率の状況　算数】



算数

○　「図形」の領域は、滋賀県平均を上回りました。全体的に全国・滋賀県の状況に近い傾向を示しています。

○　折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかをみる問題が全国平均より 2.1 ポイント上回り、よくできていました。

●　「数と計算」の領域において、とくに④（１）「５４０÷０．６を計算する」問題で「９０」とする誤答が多いなど、計算力に課題が見られました。

●　計算に関して成り立つ性質を活用して、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題など、計算の仕方を考察し、論理的に説明することに課題が見られました。

児童質問紙

○「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」と回答した児童が多く、全国・滋賀県の平均を上回りました。また、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童も多く見られました。

○学習の中で PC・タブレットなどの ICT を活用することについて、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「わからないことがあった時にすぐに調べることができる」と回答した児童が大変多く、「楽しみながら学習を進めることができる」「自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」と回答した児童も、全国・滋賀県の平均を上回りました。ICT 活用が児童の学習理解度や学習意欲の向上に結びついていることが示されました。

●放課後や土日などの学校の授業以外に「家庭で学習に取り組んでいる時間」は、1 時間未満や全くしないと回答した児童の割合が全国・滋賀県平均より高くなっています。また、「休日の過ごし方」の質問では、「家で勉強や読書をしている」児童の割合が低い一方で、「テレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用している」児童の割合が高くなっています。

●国語や算数の勉強は「大切だと思う」「将来、社会に出た時に役立つと思う」と答えた児童が全国・滋賀県平均より多い一方で、「国語や算数の勉強は好き」「授業で学習したことを、普段の生活で活用できないか考える」と回答した児童の割合が低くなっています。

指導の充実に向けて

環境づくり

- 「人・物・時間を大切に」を合言葉に、安心して通い、楽しく学べる学校づくりに努めます。
- 児童会活動・南郷スマイルボランティア活動など、子どもたち主体の活躍の場づくりに努め、子どもたちの自己肯定感の向上につなげていきます。

基礎基本の定着

- 丁寧な学習の積み上げ、基礎基本の定着を図ります。
- ICT を活用したドリルタイムを設定し、一人ひとりの課題に合わせ学習を推進し、個々の力も伸ばしていきます。また、ICT を活用することで、学習意欲の向上や、より効果的な学びとなるように工夫していきます。

学び方の工夫

- 自分の考えと他の人の考えを比較したり、文や図表などを活用したりする活動を通して、多面的に考察し、学びを深めていけるようにします。
- 文や式などの意味を理解したり、図表や資料などを読み取ったりする力の向上に努めます。また、わかったことや、自分の考えを説明したり書いたりする機会を意図的に作り、対話をしながら学びを深めていくことができるようにします。

家庭・地域との連携

- 市立図書館と連携し、読書活動の充実に努めます。
- 家庭と連携し、家庭学習の工夫・改善を行うことで学習習慣の定着を目指します。